



市民病院

# ハチちゃん通信

問合せ  
市民病院管理課  
☎(48)5050

## はじめまして、 入院支援センターです

平成31年4月より、「入院支援センター」が開設となりました。場所は、総合案内横「入院支援センター」が目印です。

私たちスタッフは、予約入院が決まった患者さんやご家族へ安心して入院医療が受けられるよう、入院中に行われる治療や入院生活に関するオリエンテーションを、わかりやすく丁寧に説明させていただきます。また入院前の生活状況などを聞き、入院前から関わることで、患者さんやご家族が安心して入院生活を送ることができるよう支援させていただきます。お気軽にお声かけください。



## 碧南の歴史へのいざない

問合せ  
文化財課内市史資料  
調査室 ☎(41)4566

### No.60 鷺塚城主 水野忠重 (3)

水野信元は、武将として傑出<sup>けっしゅつ</sup>していました。いち早く織田家と同盟関係をつくり知多半島を支配下に置いています。しかし、水野家中で、信元に仕えることをよしとせず、忠重とともに浪人となる仲間がいました。水野太郎作清久とその父、さらに村越又一郎たちでした。

桶狭間合戦後に忠重、太郎作らが身を寄せたのは、忠重の姉お亀が嫁いだ三河鷺塚村片山家でした。居場所に困っている弟の忠重らを姉のお亀が引き受けたものと思われます。『片山家文書』には、「親族の事ゆえ、皆いっしょに当家へ引き受け置かれました」とあります。新井白石が編さんした幕府の歴史書『藩翰譜』には、「忠重は信元の舎弟といえども、兄弟の中、常に不快にして、鷺塚という所に引きこもりおり」と書かれています。

桶狭間合戦は、徳川家康が戦国大名へと自立する戦となりました。

家康は、岡崎城に戻るとほどなく、矢作川下流域を支配する吉良氏を攻めたてて、降伏させました。つづいて家康は本願寺派教団と対立を深めました。お寺の領地からも年貢収奪<sup>ねんぐしゆだつ</sup>をはかりたかったのです。お坊さん相手の戦ですから、家康は容易に従わせることができると考えたようです。ところがいったん戦になると教団勢力は家康の予想をはるかに超えるものでした。家臣の多くは本願寺派の門徒で、教団側につく者が続出しました。

1563年の秋から冬にかけて一揆勢力が拡大するなかで、家康も兵力の増強<sup>ほんそつ</sup>に奔走しました。『片山家文書』には、「永禄6年(1563)に三河本願寺一揆がさし起こり、その節に家康公は、忠重、太郎作にお頼みになられた」とあります。

